

澁江商店



[創業年] 1956年(昭和31年)
 [売場面積] —
 [事業従事者数] 5.0人※本支店合計
 [営業時間] 7:00~19:00
 [定休日] なし

[商品構成]

・青果物	77.5%
・総合食料品	20.8%
・文具、日用品	1.7%

[店舗所在地] 長崎県対馬市美津島町鶏知 528-4

[URL・SNS]

[経営理念]

「誠実の積み重ねの連続」

日々変動する青果の価格や品質に真摯に向き合い、「澁江商店」を信じて選んでくれたお客様に喜んでもらえるようその時のベストの価格と品質、接客にて誠実に対応する。

国境の島の貴重な食のステーション

[お店の概要]

“国境の島”長崎県対馬市にある食料品店。

同店の創業は、昭和31(1956)年、現代表の父が玩具・文具店を始めたことによる。その後、地域ニーズに応え食料品を主に扱うようになっていった。

昭和56(1981)年、現代代表が事業を継承。平成19(2007)に道路拡張にともない店舗を移転。平成30(2018)年、現代代表の長男がUターンし、専従者として事業に従事した。

令和2(2020)年の対馬市の人口は約2万8千人、65歳以上が全人口に占める高齢化率は約38%、うち80代以上が3,765人と全人口の13%を占める。これは国全体の高齢化率29%を上回る。年々続く人口減少、高齢化に対し対馬市は島内留学や移住促進

策などを通して若い人の呼び込みを続けている。

同店は島のほぼ中央に位置し、競合店としては、島内に 3 店舗を展開する地域スーパーをはじめドラッグストア、ディスカウントショップのほか、全国チェーン系の大手量販店がある。こうした厳しい環境の中、同店は地域にとって無くてはならない食品スーパーとして地域を支えている、

【お店の経営ノウハウ】

同店の強みは、地域に根ざした食料品店として、客の細かなニーズに応えている点だ。

現代表の妻が壱岐島出身であることから、壱岐産のイチゴ、アムスメロン、シャインマスカット、マンゴー、トマトなどを仕入れることが可能となっており同店の来店客の 9 割が果物を求める客だという。

対馬は南北に長く、食料品店まで道路状況など離れた地域がある。一方でロードサイド型の競合店もある中、移動の手段が限られる高齢者の買い物客支援として金額を問わず商品ひとつから配達を行っている。また高齢者がすぐに食べられるよう野菜のスライサーを導入し、カット野菜の販売を始めた。また、店舗入口はスロープを設け、島内の介護施設の利用者が介護士といっしょに買い物に来ても、車椅子に座ったまま買い物ができるようになっている。

現代表が対馬市商工会の理事を、後継者の長男が同商工会の青年部長を務めるなど地域を盛り上げる要職にもある。また長男は JA 対馬の青年部として農業分野にも関わっている。農業者とは玉葱の栽培契約を結び、販売するなど島ならではのネットワークを最大限に活かしている。

地域の世帯変化や人口減少にあわせ、少量、下処理済みでの販売に対応するべく野菜スライサーを導入している。



後継者の澁江夏輝氏が LINE 会員へ月 5 回お買い得送品の入荷情報及び 2 ヶ月に 1 度程度クーポン配布(上右)、日に 5 件ほどのインスタグラム(上左)、この他にも折込チラシもあり、紙媒体と SNS 双方の積極的な情報発信を行う。